

経営比較分析表（令和6年度決算）

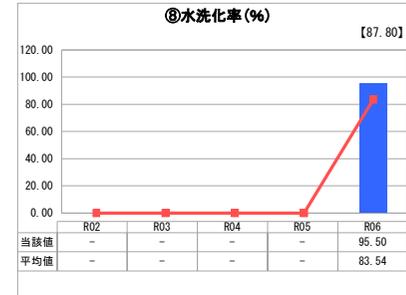
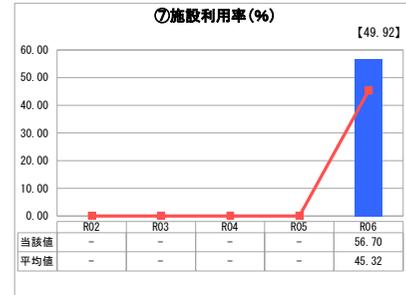
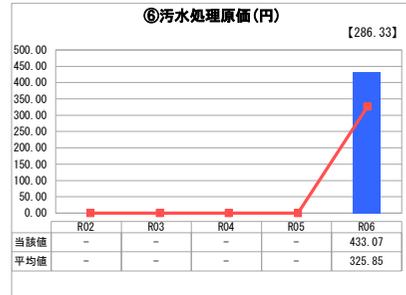
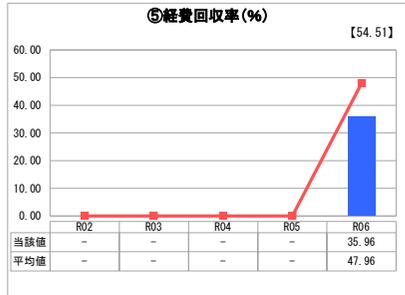
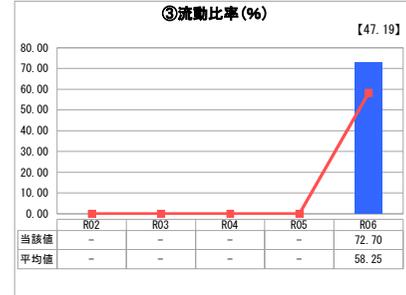
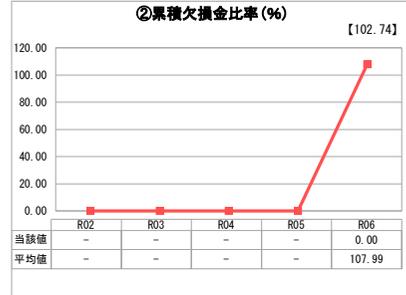
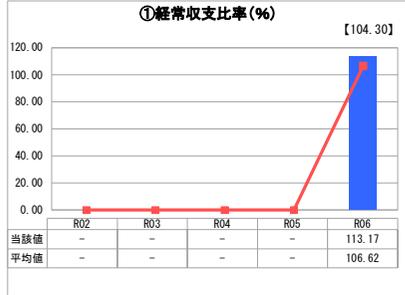
岡山県 西粟倉村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	93.49	100.00	100.00	3,300

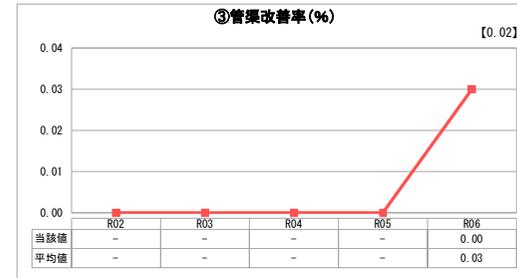
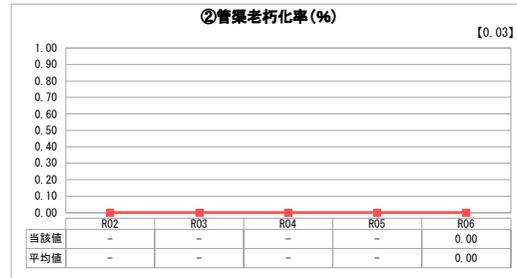
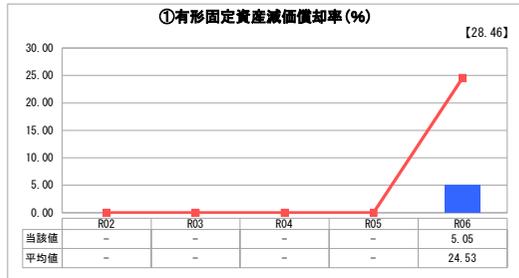
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,331	57.97	22.96
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,311	0.61	2,149.18

分析凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析概

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は113.17%で黒字であるが、使用料収入を主とした黒字ではない。収益的収支の内訳は使用料等22.09%、一般会計負担金27.9%、長期前受金50.1%であり、現金収入を伴わない長期前受金入が収益の半分を占める構造である。決算でも当年度純利益10,971千円、経常利益13,289千円を計上する一方、営業収益25,140千円に対し営業費用95,532千円で営業損失70,392千円である。減価償却費の57,235千円が固定費として大きな負担である。需要側は施設利用率56.70%、水洗化率95.50%と類似団体平均や全国平均を上回る水準であるが、経費回収率35.96%、汚水処理原価433.07円/m³と、料金で費用を賄い切れていない。人口1,311人、処理水量161.62m³(前年差▲6.5%)の人口減少下では、今後も料金収入の伸びは見込みにくいことから、定期的に使用料の見直しを検討する必要がある。

2. 老朽化の状況について

比較分析表では有形固定資産減価償却率5.05%、管渠老朽化率0.00%であり、現時点で管路が耐用年数を超過している状況ではない。しかし、処理場の機械等は2015年の大規模更新から20年が経過する2035年前後の数年間に再度の大規模更新が必要となる見込みである。加えて管路は1990~1995年に整備され、耐用年数50年を経過する2040~2045年に更新期を迎える。更新費の平準化と敷設後70年以内更新を前提にすると、2032~2060年の29年間の更新、または2037~2060年の24年間の更新が現実的な案と考えられる。さらに、2035年前後は処理場機械の大規模更新と、管路更新(または準備)が重なりやすい時期と考えられる。今後は、固定資産台帳や故障履歴等を基に劣化を定量化し、機械系は予防保全で更新周期を管理しつつ、管路は平準化前提の更新ロードマップと資金計画を一体で整備することが必要である。

全体総括

本事業は、将来負担を前提に以下に継続して取り組む必要がある。短期的には、人口・処理水量の縮小下でも効率性を少しでも押し上げるための運営に務めつつ、定期的に使用料の見直しを検討する必要がある。中長期的には、2035年前後の処理場機械等の大規模更新と、2040~2045年に見込まれる管路更新の山を、長期分散で平準化し、財政的に実現可能な更新計画(基金・起債・一般会計負担・補助金含む)を策定し、着実に実施することが重要と考えられる。結論として、更新投資の平準化を柱に、予防保全型のアセットマネジメントへ移行し、持続可能な事業運営に繋げる必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。